



横浜市立城郷小学校  
明治33年6月創立

# 学校だより

めざす子ども像

令和6年1月9日

1月号



ともに学び、よりよい生き方を見つけ出す しろさとっ子

◆学校だよりはホームページにも掲載されています。右のQRコードからもご覧になれます◆

## 「親」と「故郷」のありがたさ



さんべい あつし

校長 三瓶 淳

年末年始ともなれば、親が待つ実家に帰省し、親子3代または4代でのんびり過ごすイメージがあります。私も一昨まではそうでしたが、去年は父が入院していたため母と二人で年を越し、その父が他界するとついに母も施設に入ることになり、現在実家（福島市）は空き家となってしまいました。それでも一時帰宅を楽しみにしている（ほぼ毎日「いつ帰る？」と電話を掛けてくる）母を連れて、実家で年末年始を過ごしてきました。

母は、一人暮らしとなってからは、料理をすることも掃除をすることも面倒と思うようになり、さらに認知症を患ってからは近々の出来事や予定を忘れてしまうことが多くなっているため、母の問いかけや行動などに際しては、寛容に受け止め、穏やかに返そうと心に決めていました。

しかし、施設へ迎えに行くなり実家に持ち帰る物に関してダメ出しをしたり、スーパーで雑煮やお煮しめなどの食材を買うに当たっても言い合いになったりしました。それ以外にも、予定のことや思い込みで何度も同じことを聞いてくる母に「さっきも言ったよね！」とつい語気を荒げてしまいます。合間に「美味しいお菓子あるよ〜。」「お茶飲むか〜？」と声を掛けられても「いらない！」と返す始末。私はそのたびに自己嫌悪です。結局、のんびりすることなどなく1日目が過ぎました。

2日目は天気もよかったので、母校の小学校や中学校を見ながら地域を歩きました。年末のせいか、歩いている方を見かけません。そんな時、ある家の駐車場横を通過した時に、そこで立ち話をしている見知らぬご婦人方が、「お世話さます。」と挨拶をしてくれました。突然だったので、会釈するのが精一杯でしたが、後で「いい天気ですね〜。」ぐらい返したかったと悔やみました。

1時間半ぐらい歩き、あと20分程度で実家に戻れそうな場所で、高齢者ドライバーから高速道路のICへ行く道を尋ねられました。私は助手席に乗せていただきIC入口の標識がある所まで案内した後、車から降りました。そこは、実家と真逆の方向だったので、倍の時間をかけて家まで帰らざるを得なくなってしまったのですが、困っている方の役にたったという小さな達成感で足取りも軽く、心はぽかぽかでした。

感謝

その日から、私が食事の用意や片付け、掃除などをしていると、必ず母が「ありがとう。」と何度も言っていることに気が付きました。思えば、初日の私は、母に対して「やってあげているのに」という気持ちが強過ぎたため、自分の思い通りにならないことにいらいらしていたと思いました。挨拶や感謝する気持ちの大切さは、分かっているつもりです。それでも故郷に帰ったり、親と会ったりしたときに改めて考えさせられることも多いです。だから、「故郷」は大事な場所であり、「親」の存在は有難いのですね。城郷小学校がたつこの鳥山町、そして城郷地区も子どもたちにとって住みやすい街であり、故郷（ふるさと）として長く記憶と心に残って欲しいと思いました。

私は、最終日に母を施設まで送り届け、次回の帰省日を紙に書き、壁に貼って部屋を出ました。それでも直ぐに「今度いつ来る？」と尋ねる母……。私は「いつでも来るからね！」と答えると母は安心したのか「ありがとう。」と言って手を振り見送ってくれました。さあ、今年も頑張るぞ！